

令和8年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和7年度)

令和8年7月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和8年5月29日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和7年度自己評価報告書」について、自己評価の各項目に対する評価とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

区 分	委 員 名	摘 要
教育関係者	水野 泰孝	岐阜農林高等学校校長
関連業界	細江 広仲	南ひだ森林組合 代表理事組合長
	美谷添 理恵子	白鳥林工協業組合 代表理事
	石橋 明世	ぎふの木の住まい協議会 事務局長
行政機関	大島 弘義	岐阜県林政部林政課長
学識経験者	伊藤 栄一	NPO法人森のなりわい研究所 代表
在校生の保護者	山田 五月	2026年度入学エンジニア科保護者
卒業生	後藤 里花	2024年度クリエーター科卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値と委員の評価結果

評価項目	自己評価値	委員の評価結果	
		適切	不適切
1. 教育理念・目的・目標	2.0	8	0
2. 学校運営	2.0	8	0
3. 教育課程、教育の実施、学修成果	2.2	8	0
4. 学生の受入れ、学生支援	2.1	8	0
5. 教育実施組織・教職員	2.0	8	0
6. 教育環境	2.0	7	0
7. 教育活動の基盤と改善・向上の取組	2.4	7	0
8. 法令等の遵守	2.0	8	0

※自己評価値は、「3：基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている」「2：概ね基準を満たしている」「1：基準を満たしておらず改善が必要」

※委員の評価結果は、学校の自己評価の内容を「適切」又は「不適切」と評価した委員の人数

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者評価委員会では、全8項目の自己評価結果のうち6項目は全員の委員から「適切」であると評価を受けました。2項目の「6. 教育環境」と「7. 教育活動の基盤と改善・向上の取組」については、安全及び防災に対する体制、予算の確保の面からそれぞれ1人の委員から「適切」または「不適切」のどちらでもない評価を受けました。今後、安全及び防災に対する体制の強化、学校運営に必要な予算の確実な確保に努めてまいります。

また、「適切」と評価いただいた項目の中にも、改善が必要な内容が含まれているため、今回いただいたご意見やご提言等を踏まえ、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上対応してまいります。

令和 8 年度学校関係者評価委員会における委員の意見それに対する本校の対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目的・目標	2.0	特になし	—
(2) 学校運営	2.0	特になし	—
(3) 教育課程、教育の実施、学修成果	2.2	- 森と木のクリエイター科では、地域の産業界の実際の課題の掘り起こし、設定が重要である。 - 学生にとって課題達成などの成功体験が必要であり、それが自信の形成につながっている。 - アカデミービジョン2040についてはロードマップを作成し段階的に目標を決めつつ随時見直していくことが重要である。 - 学生のキャリアを見据えながらアカデミービジョン2040に基づき、科目が作成されていることを学生に伝えるとよい。 - 授業の評価にあたっては、評価制度によって過度に管理すると、本校の自由な学びが損なわれる可能性がある。	- 今年度は課題研究ゼミに他分野専攻の教員も参加し議論に加わることで、課題の掘り起こしから実践にわたり広範な視点を取り入れ取り組んでまいります。 - 三林大の伐木選手権など学生の実践成果の場を設けてまいります。 - ロードマップの作成や、段階的に目標を設定することで、随時見直してまいります。 - アカデミービジョン2040が目指す人材像等について学生に授業などで伝えてまいります。 - 評価と自主性のバランスをとりながら自由な学びを損なわないよう配慮してまいります。
(4) 学生の受入れ、学生支援	2.1	- 学生確保のためには、進路選択前の早い段階から学校の存在を認知させることが重要である。 - 多様な特性を持った学生が今後増加すると考える。適切な支援体制を整えるとともに	- 農林高校生向けの体験授業やモリノスの出前講座などを活用し引き続き当学の存在を認知してもらう活動に取り組んでまいります。 - カウンセラーと連携し教員のサポートを行うほか、高校の教員とも情報共有を行うなど、教員

		教職員の理解と支援強化を今から力を入れておく必要がある。	のサポートを強化してまいります。
(5) 教育実施組織・教職員	2.0	教員の業績評価、能力評価は大事だが、評価にがんじがらめとなり疲弊してはならない。教員の負担にならないよう評価をしつつ、客観性を付加することが求められる。	引き続き適正な評価に努めてまいります。
(6) 教育環境	2.0	- 実習中における事故や災害発生時の対応、学生、職員の安否確認は確実に出来るよう体制を整備しておく必要がある。 - 実習においては学内の演習林だけでなく、県内にある岐阜大学の演習林なども活用し多様な森林の学びを行ってほしい。	- 学校安全計画や事業継続計画(B C P)に基づき学生、教員の安全確保に努めてまいります。 - 引き続き多様な森林の学びを行うため、県内各地の森林を活用してまいります。
(7) 教育活動の基盤と改善・向上の取組	2.4	評価の在り方についてガイドラインに沿った評価項目のみならず、アカデミーとして客観性を持たせながら独自項目を載せていただきたい。	本校の特色を反映できる評価項目について検討してまいります。
(8) 法令等の遵守	2.0	特になし	—